

令和7年度 行政改革審議会（外部評価） 議事録要旨

日 時	令和7年10月24日（金）午後1時30分～3時45分	
場 所	へきしんギャラクシープラザ 302会議室	
出席者	委 員	（グループリーダー）高松淳也、浦田真由、酒井大策、松村敦夫、
	担当課	【図書情報館ICT推進事業】 アンフォーレ課長、図書情報係係長 【文化財啓発事業】 文化振興課長、文化財係係長、専門主査
	事務局	経営管理課長、経営管理課課長補佐、経営管理課（行革・経営係長、橋本専門主査、中川専門主査）
次 第	1 経営管理課長あいさつ 2 外部評価の進め方について 3 外部評価 （1）図書情報館ICT推進事業 （2）文化財啓発事業 4 振り返り	

- 1 経営管理課長あいさつ
- 2 外部評価の進め方について
（事務局説明）
- 3 外部評価
（1）図書情報館ICT推進事業

（アンフォーレ課説明）

○委員

説明をお聞きして、データベースの重要性は非常によくわかりました。ただ、必要不可欠なものかという視点になると、やはり図書館という機能の中ではプラスアルファの部分ではないかと感じます。メインのターゲットは、どういう層でしょうか。また、現状の利用者の属性はわかりますか。

○アンフォーレ課

基本的には、図書情報館の利用者カードを持っている方全員が利用できますので、ターゲットは、図書情報館の利用者全員です。児童生徒には敷居が高いコンテンツしかないこともあって、実際の利用者としては、新聞等のデータベースを利用する年配や40代以降の方が多く、児童生徒の利用はほぼない状況です。

○委員

年配の方の利用が多いということですが、せっかく貴重なデータベースにアクセスできますので、児童生徒向けに、調べものに使ってもらえるような工夫をしたり、イベント等を開催してもいいのではないかと思います。最近、高校生が探究学習として研究活動をしています。データベースでは通常のインターネットとは違う検索結果が得られ、研究に役立てられるということをもっとアピールすると良いと思います。

先程、データベースを周知するという説明がありましたが、それは存在を周知するだけなのか、データベースの内容も併せて周知するのか、教えてください。

○アンフォーレ課

今までの周知活動としては、図書情報館にはこうしたデータベースがあるということを広報に掲載することしかやっていませんでしたので、今年度は、周知方針を変える方向で話をしています。今回開催した講座のように、農業者や医療関係者といった対象者の社会的属性を絞って、こういったデータベースがあるからこういう使い方ができます、あなたの職業のこういうところに役立ちます、というPRを今年度やってみて、来年度はさらに深くやりたいと思っています。

高校生の探究学習につきましても、データベースだけではなく、図書館という場所をもっと有効活用してほしいと思いますので、市内高校と連携しながら周知をしていきたいと思っています。

○委員

そうした形で進めていただきたいと思います。もう一点質問ですが、システム等で利用者属性を取ることはできますか。

○アンフォーレ課

アナログな方法ですが、利用申請書に利用者カードの番号を書く欄がありますので、その番号から年齢を調べることが可能です。

○委員

既にされているのかもしれませんが、企業、特に中小企業は、情報や資料の蓄積がありませんので、そうしたところにデータベースを積極的に活用してもらえると良いと思います。例えば、商工会議所等とは連携はしているのでしょうか。

また、周知はまだこれからということですが、やっぱり子どもに対する周知は難しい面もあると思いますので、先に親に周知して、一緒に図書情報館に遊びに行った際に、子どもと一緒にデータベースを利用してみる、という流れが出来ると、利用が増える可能性があると思います。

○アンフォーレ課

中小企業等の事業者への周知ですが、スライド資料にあるとおり、図書情報館3階にある安城ビジネスコンシェルジュと、ビジネスに特化した新しいPRチラシを今作成しています。それが完成次第、商工会議所等にもお声掛けして、PRに繋げていきたいと考えています。

○アンフォーレ課

ABCの事務所が図書情報館内のデータベース端末の前に所在していることもあり、ABCの職員はデータベースをフル活用しています。ちょうどコロナ禍のときに、「事業再構築補助金」という補助金制度を国が作りました。安城市内でも業績が傾き始めた企業がその補助金を申請する際に、ABCに相談に来まして、「事業再構築補助金」の申請書の書き方等を「MieNa（ミーナ）」というデータベースで検索しました。このおかげで、ABCを経由して「事業再構築補助金」を申請した企業は、ほぼ100%補助金を受け取れたという実績があります。

○委員

補助金ですと、中小企業が申請しようとするのが難しい面もあります。例えば、中小企業診断士の方等の専門家と一緒に相談できる日を作り、相談に来たら一緒に検索しましょうといったイベントも良いと思います。

○委員

こういうデータベースは、あればあるほど喜ばれるものだと思いますし、逆に言うと、何をやるかという視点も非常に重要だと思います。これらのデータベースは、市民が利用したいと思うものだけなのか、何年かに一度でも誰かの利用があればいいというものまで備えているのか。300万円、400万円という金額は大きくはないですが、小さい額ではありません。図書館の役割を考えたときに、こういった方にデータベースを提供したいのかということを確認したかったので、先程ターゲットが誰かという質問をしました。こうしたデータベースはやめるべきではないか、というより、どこかで線を引くことを検討すべきではないかと思いますので、もし、課としてお考えがあれば教えてください。

○アンフォーレ課

ご意見はもつともだと思います。とはいえ、社会教育事業における図書館の存在意義として、図書資料を豊富に揃えておくことは必要だと考えています。確かに、際限なく資料はデータベースを揃えるわけにはいきませんので、安城市の図書館として、安

城市民のためにどこまでの資料を揃えるかという線引きをするべきである、という考えはそのとおりだと思います。現状では、安城という土地柄上、農業であったりですとか、商工会議所や中小企業、全国的に有名な安城更生病院という病院もありますので、医療関係であったりといった、安城市としての地域特性を踏まえたデータベースを用意しようということで、現在の17種類を揃えているということになります。

○委員

非常によくわかりました。そうであれば、利用目標をもう少し伸ばした方が良いと思います。データベースの種類は揃っていますが、この利用件数では少しもったいないと感じました。

○委員

安城だと農業というキーワードは重要だと思うのですが、農業従事者向けのコンテンツやそうした連携をすると良いと思います。

○アンフォーレ課

事業者向けのチラシを作成して商工会議所に配布するように、農業であればJAであったり、医療関係であれば安城更生病院だったりとか、各団体と連携を密に取って、データベースを利用してもらいたい属性の方に、ピンポイントに情報が届くようにしたいと思っています。

○委員

2点お聞きします。令和7年度は、PRイベントへの参加者が比較的多かったということですが、このイベント参加者は、こうしたデータベースが図書情報館にあることを知っていたのでしょうか。冒頭の説明の中で、46%の方は「使ったことがない」、「知っているが使ったことがない」、「知らないのだから使ったことがない」という結果だったと思うのですが、PRイベントに来た方は、事前にデータベースの存在を知っていたのでしょうか。

17のデータベースの選定基準は先程の説明で理解しました。担当課の考え方としては、データベース数と内容を精査して、数については現状維持するということですが、今後データベースの入れ替えはどのように考えていますか。もし考えがあれば、どういう方向で考えているのか教えてください。

○アンフォーレ課

令和7年度のイベント参加者では、データベースの存在を知らなかった人の方が多かったという印象があります。そもそも、図書館のサービス全般に共通して、安城市

に電子図書館があることも知らない方もたくさんいますので、全体的なPRが足りていないことがよくわかりました。

データベースの入れ替えについては、探求学習等に使える子ども向けデータベースを、来年度導入できるよう現在調整中です。

○委員

子ども向けのデータベースは、安城市の公立小学校の図書館とどのような連携をしていますか。学校には図書室がありますし、必要な資料も揃っていると思いますので、そこまでPRしていないかもしれませんが、このデータベースを含めて、安城市の小学校図書館とはどのような連携をしていますか。

○アンフォーレ課

安城市の場合、全ての小・中学校の図書館に学校司書が配置されています。アンフォーレ課の職員と、学校司書との連絡会で情報交換しており、各学校の児童生徒が読みたがっている本があれば図書情報館の本を学校に配送しますし、学校の先生から、授業で使いたい本や、調べものに適した図鑑や図書を貸して欲しいと要望があれば、そうした図書を貸す等の連携を以前から密にしています。

また探究学習という言葉が出てきましたが、児童生徒が調べものをしようとする、インターネットが多くなり、裏付けのあるデータに辿り着かないこともあると思います。残念ながら、これらのデータベースは図書情報館に来ないと使えないのですが、そうした事情を踏まえると、各学校に情報提供して、ぜひ図書情報館を使ってくださいというPRを今後したいと思っています。

○委員

大学でも、こうしたデータベースは一般化していて、私もよく利用します。最近は多くがオンラインで使えるようになって、私の大学でも学生は図書館に行かなくても利用できるようになりました。オンラインでも利用が可能とすると、一気に利用者が増えると思います。契約内容や金額面等でかなり違うと思いますが、オンライン利用を可とするのは難しいのでしょうか。

○アンフォーレ課

アンケートでも、自宅でも使えると便利だというご意見をいただくのですが、今でもログインアカウントを絞っていますので難しいです。

○委員

それでは、委員の皆様から評価コメントをいただきたいと思います。

○委員

既に様々な工夫をされていますが、まだ努力できることもあるのではないかと感じました。現状で目標利用回数が1回というのは、目標として低いと思いますし、データベースがもったいないと思います。目標をもう少し高く設定して、目標達成のために何をするか、ということを考えて進めていただきたいと思います。

○委員

データベースの必要性は十分理解しました。ただ、現状の利用人数では、そもそもニーズがあるのかも疑わしいと感じますので、PRによって、利用者数を伸ばすだけでなく、事業の精査、つまり本当にニーズがあるのか、どういったデータベースにニーズがあるのかといった、根本的な検討が必要だと思います。そうした検討によって、コストにしても利用者数にしても、もう少し改善できるのではないかなと思いますので、事業の精査をしていただきたいと思います。

○委員

大変有意義な事業だと思いますので、内容の充実を図っていただきたいと思います。既に問題意識はあると思いますが、利用者を増える対策をどうやって考えていくかということが大事だと思います。そのためには、既に取り組んでいるとおり、学校や商工会議所、JA等との連携をもっと密にしていくことが大事だと思います。少し観点は違いますが、利用者の方に対して、コンテンツの募集イベントを開催してみるのもいいと思います。

○委員

集計結果を発表いたします。「要改善」が3名で、「拡充」が1名ですので、評価結果は「要改善」となります。

各委員からのお話のとおり、コンテンツが素晴らしいというのは自明のことだと思います。ただ、それをどうやって広めていくかということを考えると、ビジネスとか農業、医療関係、特に安城更生病院といった施設もあれば、小学校と連携して、校外学習のついでにイベントを開催するといった方法も考えられると思います。少し利用人数が増えたとはいえ、30名ということですので、まずは利用しに来てもらうことが大事だと思います。例えば、大学の図書館で学生にこんなことができますよとデータベースを見せても、その後の利用につながりません。軽い気持ちで、実際に学生が利用してみることが大事だと思います。

また、図書情報館の側からは実際に来館して欲しいと思いますが、リモートで使えるデータベースが一つでもあるということがわかれば、今後は図書館に行こうと思う

可能性もあると思います。そういった工夫や今後の取組を含めて、「要改善」という評価だと思います。図書館ICT活用事業につきましては、以上とさせていただきます。

(2) 文化財啓発事業

(文化振興課説明)

○委員

私は歴史が非常に好きで、歴史博物館にも行きました。以前、大分県臼杵市で臼杵城を中心にしたシビックプライドの醸成に関する講演をしましたが、今回の文化財啓発事業で、シビックプライドという言葉と歴史を結びつけるのは、私としては非常に正直重要な視点だと思っています。

今回の事業の対象は、「文化財啓発事業(安城市ジュニアキュレーター講座)」という題名ですが、「文化財啓発事業」だけが対象なのでしょうか。それとも、この後半の「ジュニアキュレーター講座」の部分のみを対象に評価するのか、もう少し広い意味なのか、確認させてください。

○経営管理課

事務局です。文化振興課の外部評価ですが、元々は、昨年度の事務事業総点検で「文化財啓発事業」における「高校生のY o u T u b e制作」が廃止という評価を受けましたので、今年度、この講座を開始したという経緯があります。本日の外部評価としましては、「ジュニアキュレーター講座」についても、「文化財啓発事業」全体についてもご意見をいただきたいと思っています。というのも、ジュニアキュレーター講座自体、今年度始まったばかりで、この方向性で良いのか、それとも、さらに発展的な方策があるのかないのか、市としても迷っているところですので、「ジュニアキュレーター講座」に限らず、「文化財啓発事業」全体についてもご意見を賜ればと思っています。よろしく願いいたします。

○委員

わかりました。では、総括として、担当課として「高校生Y o u T u b e制作事業」はどういった印象だったのかということと、「ジュニアキュレーター講座」をやってみて、どういった部分が非常に良かったか、具体的に感じていることが何かありましたら教えてください。

○文化振興課

「高校生Y o u T u b e制作事業」の成果につきましては、先ほど紹介したとおりで、歴史に興味がある高校生を輩出しました。入口は動画制作であったかもしれませんが、動画制作の中から歴史に興味を持つ子どもたちが出たことは、非常に良いことだったと思います。

一方で、事務事業総点検では、動画制作が目的化し、主となりつつあるという意見や、人材育成の方法として、動画制作による必要はない、という意見がありましたので、「廃止」という評価を受けたと思います。そうした意見を踏まえて、新しく「ジュニアキュレーター講座」を立ち上げたのは、講座として、子どもたちに歴史に興味を持ってもらうという目的は当然ありますが、子どもたちが直接的に歴史や文化に関わることも重要だと考えて、この事業を開始しました。

もう一つは、この講座では、子どもたちは同世代で刺激を受けながら取り組んでいます。講座では様々な学校の子どもたちが集まっていますが、最後の講座に向けて、グループでいろいろ話したり、議論して進めています。そういった点では、今後のキャリアデザインと言うと少し語弊がありますが、子どもたち自身が、どのようにやってこうかと考えて取り組むことで将来に生きる、そうしたところがジュニアキュレーター講座の効果だと思っています。

○委員

個人的には、“フック”は何でもいいと思っています。Y o u T u b eの動画を作りたいくて、それがきっかけで歴史に興味を持つという場合もあると思います。私も歴史が好きになったきっかけはゲームですので、正面から考えるばかりではなく、幅の広い進め方を検討するのも大事だと個人的に感じます。

○委員

非常に魅力的な事業だと思います。この講座は、どのような時間や曜日に開催していますか。

○文化振興課

土日の午前中に実施しています。

○委員

今の子どもたちは忙しく、興味があっても参加できない子もいると思います。私の地元ですと、部活が廃止になり、学童クラブに参加していない子ですと、授業後の時間を持て余している子もいます。ですので、例えば、部活のように、講座を授業後に開催すると良いと思います。学童クラブでも、地元の大学生が研修で参加したり、外部の方が子供たちを楽しませるといった取組をやっていたりしますので、学童クラブ

等で、子どもたちがこうした講座に参加できる機会があるといいと思います。

また、内容についても、子どもが自身の成長が評価できるといいと思います。「高校生のY o u T u b e制作」でも高校生自身の成長の実感や、地元への愛着醸成に繋がったかということの評価していたかもしれませんが、検索すると、高校生に関わる他の自治体の取組事例や、参考になる指標が出てきます。そうした指標等を参考にし、取り組んだ内容が評価できる形で進めると良いと思います。

○委員

素晴らしい取組だと思います。質問ですが、安城市内の学校には歴史部といった部活動やクラブはありますか。

○文化振興課

市では把握していません。

○委員

ジュニアキュレーターとは少し趣旨がずれるかもしれませんが、例えば、安城の歴史の発表会のように、歴史に関わる生徒の活動内容を発表する大会のようなものがあると、学校間や生徒同士、横との繋がりができる可能性があると思います。安城市は歴史的な資源に恵まれていますので、今回の取組と趣旨はずれるかもしれませんが、そうした取組も面白いのではないかなと思います。

○文化振興課

部活動やクラブ活動は把握できていないのですが、市内小中学校の社会科自由研究作品展で「歴史のひろば」という取組があります。各学校の優秀作品を市民ギャラリーで展示して、その中から歴史大賞、歴史賞という優秀賞を選定するものです。これまで、「科学の広場」という、理科系の自由研究作品展は以前から実施していたのですが、その歴史版という形で始まり、今年で約20回となります。ジュニアキュレーター講座の参加者の中でも歴史大賞を取っている生徒もいまして、講座で受けた刺激が作品にも繋がっているかと思います。

○文化振興課

補足ですが、今年度、「歴史のひろば」で展示したのは57点ですが、展示された作品以外の応募作品は、全学校合わせて400点を超えています。社会科の授業で応募してくれた子もいますので、取り組みやすいのかもしれませんが。

○委員

冒頭に、「この講座のみが外部評価の対象ですか」という趣旨の質問をしましたが、「文化財啓発事業」というと、どの範囲までがこの事業に含まれるのか、範囲がとても広い気がします。このジュニアキュレーター講座以外に、こうした啓発事業として実施している取組があれば教えてください。

○文化振興課

「あおぞら歴史教室」という、市内の歴史遺産の理解を深める見学ツアーのような取組があります。「土器づくり教室」は、土器作りのボランティアに毎週に来てもらい、弥生時代の土器の作り方を再現する取組です。夏休みの「子ども考古学講座」は、小中学生を対象とした実践型の体験講座です。「史跡を巡るバスツアー」は、安城ふるさとガイドボランティアと協働した取組で、ガイド養成を兼ねた講座内容になっています。その他にも、出前授業といった講座の他、発掘調査の現地説明会も「文化財啓発事業」に含まれています。どちらかというと、歴史や文化、考古学全般に関する啓発が多くなっています。

○委員

取組内容をお聞きすると、ちぐはぐに感じます。担当課の問題ではないのかもしれませんが、安城の歴史がどういうものかは、トータルで見てもらうものだと思います。他課との協力も含め、市全体で何かをやるという取組が必要だと感じます。そのように考えると、「高校生Y o u T u b e制作事業」は良い取組だったのではないかなと思います。

○委員

「文化財」という言葉は、どこまでが射程でしょうか。近代以前のものや場所も文化財なのでしょうか。そもそも「文化財」とは、何が文化財なのでしょうか。

○文化振興課

文化財に指定・登録にされるようなもので考えると、建造物は、基本的に50年経過すると登録文化財の対象になります。「文化財」という言葉としては、戦前のものを対象とすることになりますが、最近では、現代史を含むものもあります。「文化財」という言葉が持つイメージは、かなり古いものかと思いますので、言葉の使い方は今後検討したいと思います。

○委員

最近、「キュレーター」という言葉をよく聞くのですが、今ちょうど国際芸術祭「あいち2025」を開催していて、愛知県陶磁美術館や瀬戸市のまちなかで、いわゆる

現代芸術を解説してくれる人のことを「キュレーター」と記載されています。古い土器やお寺ですと、学芸員が解説するイメージがあつて、「キュレーター」とやっていることは同じではないかと思ひます。「キュレーター」という言葉を講座の名称に使ひていますが、現代のものは扱わないのか、考え方を教えてください。

○文化振興課

今回「ジュニアキュレーター」という名称にしたのは、本市の歴史博物館の指定管理者が、既に「子ども学芸員」という名称で、別のイベントを実施しています。今回、講座を新規に立ち上げる際に、講座名に「子ども学芸員」という言葉を使用すると、市民の方にわかりにくい可能性がありますので、「キュレーター」という言葉を名称に使用しました。現代的なものを扱うとか、深い意味合ひは特にありません。

○委員

「キュレーター」という言葉を使用して、参加者の反応はどうでしょうか。

○文化振興課

子どもたちには、新鮮でかっこいい感じがするのかわ、好意的に捉えてくれています。子どもと一緒に参加する父兄にも、講座の最後にアンケートを実施し、講座内容の他に、名称についてもご意見いただきたいと思ひています。

○委員

「子ども学芸員」と「ジュニアキュレーター」の違いはどこにありますか。

○文化振興課

「キュレーター」という言葉には学芸員の意味も含まれています。

○委員

今年度は、「ジュニアキュレーター」を育成し、デビューするという目標になっていますが、今後、今年度育った「ジュニアキュレーター」が何かしていくのか、また次の「ジュニアキュレーター」を育てるのか、どのように考えていますか。

○文化振興課

来年度については、内容や回数等を検討し、また新しく募集する予定です。今年度は、CBCテレビの沢アナウンサーが講師を引き受けてくれましたが、来年度、外部講師を招く際は、今年度の参加者にも声を掛ける等のフォローアップをして、今後も引き続き、歴史文化に興味を持ってもらえる場を提供したいと思ひます。

○委員

デビューというのは、実際にガイドを担当するのですか。

○文化振興課

はい、そうです。参加者は、本證寺というお寺について、興味をもったところが同じ子達でグループを組んで学習し、3つのグループに分かれてガイドします。11月16日に本證寺でイベントがありますので、今年度は、そこに来られた一般来場者の方に、実際にガイドを試みようと考えております。

○委員

せっかくそうした機会を作るのであれば、キュレーターとして1年で終わりとするのではなく、継続的な繋がりをもった取組ができるといいと思います。他市の事例では、瀬戸市では「Seto CG Kid's Program」というコンテンツ制作系のプログラムを10年以上実施しています。受講者の子たちが成長してきましたので、“アドバンス”という高校生向けの事業を開催したり、さらにその受講者の子たちと一緒に小学生を育成する取組を実施したりしていて、この事例を見ると、取組を長く続けることも大事だと思います。この取組が、単年度で終わらないように、外部の活動とも組み合わせを進めるといいと思います。

○委員

評価区分の「拡充」の考え方で質問です。内容を読むと、来年度、新たに2期生のジュニアキュレーターを養成するということだと思いますが、その内容としては、例えば、対象人数を増やすとか、お寺だけではなくて、別のものを対象とした同様の取組みを2、3同時並行するといったイメージはありますか。

○文化振興課

「拡充」の内容については、ジュニアキュレーター講座のテーマをさらに深めたり、継続的なフォローアップもやっていくことを考えています。その上で、来年度から「文化財啓発事業」では、地域文化財の担い手の方に対する取組についても予算化を考えています。“棒の手”や“三河万歳”を伝承している人たちの活動を子供たちに伝える講座についても、この事業内で予算化したいと考えていますので、そうした事業全体の話も含め、「拡充」としました。

○委員

そうすると、「ジュニアキュレーター講座」も含め、この「文化財啓発事業」全体

を拡充したいということですか。

○文化振興課

「拡充」のイメージとして、講座内容を充実させるという趣旨で先ほど例を挙げました。市内の民俗文化財を伝承している方の出前講座の予算化を進めており、若者の視点や興味を踏まえた、様々なテーマや新しい切り口で講座を充実させ、歴史への興味を深めたいという趣旨で「拡充」の内容としました。

○委員

“三河万歳”という名称は聞くのですが、それを継承する方は市内にいらっしゃるのか。今までも市としてそうした活動を支援していたのでしょうか。

○文化振興課

安城市には、来年50周年を迎える“三河万歳保存会”という団体がありまして、その方々が伝承しています。活動の支援もあれば、衣装の更新の際の補助金等で、民俗文化財を伝承している方に対して支援を行っています。

○委員

資料で気になったのですが、講座の開始した年が「あおぞら歴史教室」は昭和40年代、「土器づくり講座」が平成17年、他にも講座の開始年が平成18年、平成30年となっていて、令和から開始した取組が一つもなく、昔から実施していることが変わらないように見えます。これだけを見ると漫然とやっているように見えますので、最近の「高校生のY o u T u b e制作」以外で新しいものがありましたら、うまくいかなかった取組も含めて教えてください。

○文化振興課

この資料の表では昔からの講座が多いと感じられると思いますが、「あおぞら歴史教室」「夏休み子ども考古学講座」については、内容を毎年少しずつ変えて実施しています。令和から始めた取組では、「高校生のY o u T u b e制作」は廃止になりましたが、元々子ども向けの講座だった“古墳時代の鏡作り”のような講座は、ぜひ大人も作りたいというご意見がありましたので、“大人向けの考古学講座”ということで今年度実施しています。

○委員

それでは、委員の皆様から評価コメントをお願いします。

○委員

とても大事な事業だと思いますので、ご意見があったように、新しい取組を含め、継続するといいと思います。成長した子どもたちが、その後も継続し、活躍できる活動があるといいと思いますので、第1期生の子たちが、できれば10期生の後輩を育てるようなイメージで、継続できるといいのではないかと思います。

○委員

「ジュニアキュレーター事業」だけであれば、どんどんどうぞやってください、拡充してくださいというのが本音です。大事な事業だと思いますので、事業としてもっと広げていくべきだと思います。ただ、他の事業も含めて「拡充」したいということなのであれば、各事業の役割やターゲット、また指標についても、適切に評価できるものに、もう少し戦略的に踏み込んでく必要があるのではないかなというのが正直な気持ちです。

○委員

素晴らしい事業だと思います。私の誤解かもしれませんが、この事業では、歴史的遺産にだけスポットが当たっている気がしますが、そうではなく、安城市に限らず、西三河地域には歴史の流れがあると思います。その辺りの取組も既にあるかもしれませんが、歴史教室等にも取り組んで欲しいなと思いました。

○委員

集計結果を発表します。「拡充」が4人でしたので、評価結果は「拡充」です。

委員からもコメントがありましたが、「ジュニアキュレーター講座」は、まだ開始したばかりです。ですので、今後の展開次第かとは思いますが、せっかく第1期生が育ったことを考えると、第1期生との今後の関わり方としては、第1期生をイベントに少し呼ぶ、といった関わりに留まらず、第1期生に後輩を増やし育ててもらい、それと同時に、第1期生も成長してもらい、という形の関わりがあると良いのではないかなと思いました。

それから、少し現代美術の話をしてしまいましたが、安城は工業が盛んですので、産業遺産等の現代的なものに目を向けるのも面白いと思います。歴史好きな子どもの興味対象は必ずしも古い歴史とは限らないと思いますので、現代的なものを対象とすることも必要かなと思います。

委員の意見にあったように、今後、この事業を進めるに当たっては、ターゲットとなる層を明確にする必要があると思いますが、そうしたことを考えながら、拡充の方向で進めて欲しいと思います。

これで第2事業目の「文化財啓発事業」は以上になります。